



# 知床科学委員会 しんぶん

## 河川工作物 アドバイザー会議 No.5



「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ類が遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダム改良工事や遡上調査について助言をしています。しんぶんでは、その活動についてタイムリーな情報をお伝えします！

### 今回の会議

平成25年10月28日に羅臼町の羅臼川、モセカルベツ川、ケンネベツ川で現地検討を行い、29日に斜里町ウトロの知床世界遺産センターで会議を開きました。

### 今回話し合ったこと

- ① 羅臼川における改良した砂防ダムについて
- ② モセカルベツ川、ケンネベツ川等のダムの今後の取り扱いについて
- ③ ルシャ川等のサケ類遡上長期モニタリング、淡水魚類の生息状況長期モニタリングのとりまとめについてなど

### 構成メンバー

- 中村 太土（座長） 北海道大学 教授
  - 帰山 雅秀 北海道大学 特任教授
  - 小宮山英重 野生鮭研究所 所長
  - 妹尾 優一 流域生態研究所 所長
  - 丸谷 知己 北海道大学 教授
  - 大森司紀之 北海道大学 名誉教授
  - 山中 正実 斜里町立知床博物館 館長
  - 中川 元 前斜里町立知床博物館館長
- ※オブザーバーとして参加して頂きました。

### 羅臼川の改良した砂防ダム現地検討

平成24年12月に改良工事を終えた羅臼川（羅臼町）の砂防ダムの現地検討を行いました。砂防ダムの上流にはシロザケが遡上産卵していることが本年度の調査で確認されています。

### 今後のダム改良の検討が始まる

平成24年までに、当初予定していた13基のダムの改良が終了しました。これを受けて、今後のダムの改良を検討していくことになりました。8河川35基のダムについて再度、評価を行い今後改良することが適当かどうかを検討していきます。このうち改良が必要なダムについては、先行的に改良を行っていく予定です。



▲羅臼川砂防ダムの現地検討状況

### モセカルベツ川、ケンネベツ川のダム現地検討

今回の現地視察では、今後のダムの改良候補のうちモセカルベツ川、ケンネベツ川（羅臼町）のダムの現地検討を行いました。両河川では一番下流のダムでカラフトマス、シロザケが遡上出来ずに留まっていること、それを食べるヒグマが河口人家近くに出没していることが分かりました。

### モニタリングの実施状況

#### その1 淡水魚類の生息等に関する長期モニタリング

知床半島の36河川に水温計を設置して水温を計測しています。今年はその内、8河川でオショロコマ等の生息状況調査を実施しています。

#### その2 サケ類の遡上等に関する長期モニタリング

ルシャ川、テッパンベツ川（斜里町）、ルサ川（羅臼町）の3河川でカラフトマス等の遡上数、産卵床数を調査しています。

#### その3 改良ダムの効果検証モニタリング

すでに改良を終えたイワウベツ川（斜里町）、サシルイ川、チエンベツ川、羅臼川（羅臼町）のダムでサケ類の遡上数、産卵床数を調査しています。

# 必見! TOPIC

前号(知床科学委員会しんぶんNo.4)では、改良を行った13基のダムのうち、羅臼町側の改良ダムをご紹介しましたが、今回は斜里町側の改良ダムをご紹介します!  
改良工事によりサケ類の群れは上流域に遡上し産卵しています。

① イウウベツ川支流赤イ川 導水管 (斜里町)



▲改良前

▲改良後

⑦ ルシャ川 第2ダム (北海道)



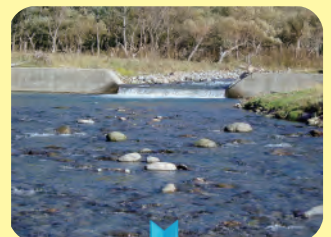
▲改良前

▲改良後



▲改良前

⑧ ルシャ川 第3ダム (北海道)



▲改良前



▲改良後



▲改良前

⑤⑥ イウウベツ川支流ピリカベツ川 No.8,10ダム (森林管理局)



▲改良前

▲改良後

④ イウウベツ川支流赤イ川 No.13ダム (森林管理局)



▲改良前

▲改良後

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター  
〒099-4355  
斜里町ウトロ東番外地 (国設知床野営場内)  
TEL: 0152-24-3466  
FAX: 0152-24-3477

■ 発行: 林野庁北海道森林管理局  
■ 制作: 株式会社 森林環境リアライズ  
■ 発行日: 2013年12月1日



委員 小宮山 英重

21歳の時に、知床を歩き始めた。43年が経過。人間の社会的な回避、同時にクマの増加、サケ・マスは捕食するタイミングを逃がす。私たちの存在を知るなど、歩き回ると、知床の生き物たちの多様さ、豊かさ、驚かされます。また、クマもサケも、みんなが一緒に生活している。人間が生活圏を維持しながら保全する。知床の自然環境の最適な将来像を模索中です。

委員の小宮山です。



2002年から野生鮭研究所主宰。北海道に生息するサケ科魚類の繁殖行動や繁殖環境が研究対象です。ウトロ在住。